

国語 第1学年 ことばのたいそう 検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 知らせたいことと聞く相手を確かめ、声の大きさや速さを工夫して伝える。大きい声ほどよいとは判断しない。A(1)ウの学習として、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。これに対して、教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。〔知識及び技能〕(1)イとA(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し: 教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。完成品だけでなく、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10: 振り返りを感想だけにしないためには。

返し: 「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

